

国営沖縄記念公園



平成23年11月29日
沖縄総合事務局 開発建設部

目 次

- I. 事業概要**
- II. 事業の必要性等**
- III. 事業進捗の見込み**
- IV. 対応方針（原案）**

I. 事業の概要

■国営沖縄記念公園は、沖縄の本土復帰を記念する事業の一環として、昭和50年に開催された「沖縄国際海洋博覧会」の跡地に整備を進めている「海洋博覧会地区」と、昭和61年度より首里城の復元を進めている「首里城地区」からなる国営公園である

事業の概要

項目	海洋博覧会地区	首里城地区
位 置	国頭郡本部町	那覇市
都市計画決定	昭和51年3月	昭和62年2月
計画面積	77.2ha	4.7ha
供用面積	71.6ha	2.8ha
種 別	口号国営公園※	
年間利用者数 (平成22年度)	約339万人	約201万人

※**口号国営公園**:国家的な記念事業として、又は我が国固有の優れた文化的資産の保存及び活用を図るために閣議の決定を経て設置する都市計画施設である公園又は緑地。

位置図

海洋博覧会地区（昭和50.7.15閣議決定）

国頭郡本部町で昭和50年度に開催された沖縄国際海洋博覧会の跡地（約100ha）を整備。通称「海洋博公園」



首里城地区(昭和61.11.28閣議決定)

沖縄の復帰を記念する事業の一環として、那覇市の首里城跡地（約4ha）を整備。通称「首里城公園」

I . 事業の概要

事業の方針

海洋博覧会地区

1. 公園の基本テーマ

「太陽と花と海」

2. 基本方針

- ① 沖縄にふさわしい公園とするとともに、沖縄の持続的な観光振興の中核となる公園とする。
- ② 沖縄国際海洋博覧会の記念事業としてふさわしい公園とする。
- ③ 日本人だけでなく外国の人々にも利用される公園とする。
- ④ 海との調和を充分考慮する。
- ⑤ 亜熱帯気候を十分考慮し、四季を通じて利用できるものとする。
- ⑥ 歴史的・文化的資源を活かした公園とする。

I . 事業の概要

事業の方針

首里城地区

基本方針

- ① 首里杜構想との整合性及び首里城の歴史的風致に配慮した施設配置計画を行う。
- ② 歴史・文化の拠点として魅力ある施設整備を図る。
- ③ 将来に向かって沖縄の歴史・文化の拠点となるよう多様な活用を図る。
- ④ 文化遺産の鑑賞、見学、体験という観光形態の充実を目指す。

I . 事業の概要

開園地区の概要

海洋博覧会地区

- 海洋博覧会地区は、昭和51年度に、旧水族館、旧オキちゃん劇場、海洋文化館、夕陽の広場、エメラルドビーチなどの海洋博覧会時の政府出展施設を主体に約36haの供用を開始した。
- 供用開始以降、ちびっことりで、おきなわ郷土村、熱帯ドリームセンター、熱帯・亜熱帯都市緑化植物園、マナティー館、ウミガメ館、イルカラグーン、沖縄美ら海水族館、新オキちゃん劇場などを供用し、現在の供用面積は71.6haとなっている。

● : 海洋博覧会継承施設



● 海洋文化館



● 夕陽の広場(再整備中)



熱帯ドリーム
センター



熱帯・亜熱帯都市緑化植物園



おきなわ郷土村



イルカラグーン



新オキちゃん劇場



マナティー館・ウミガメ館



沖縄美ら海水族館



● エメラルドビーチ



ちびっことりで



A: 熱帯亜熱帯環境ゾーン
B: 沖縄文化・センターゾーン
C: オーシャンックゾーン

I . 事業の概要

開園地区の概要

首里城地区

- 首里城地区は、平成4年度に第 I 期開園（約1.7ha）区域の供用を開始した。
- 供用開始以降、平成9年度に歓会門、久慶門内側周辺の一部（0.1ha）、平成15年度に京の内（約0.7ha）、平成19年度に書院・鎖之間（約0.1ha）、平成20年度に書院・鎖之間庭園（約0.1ha）、平成22年度に淑順門（約0.1ha）を供用し、現在の供用面積は約2.8haとなっている。

主な供用年度と施設

①平成4年度

正殿を中心として約1.7ha供用



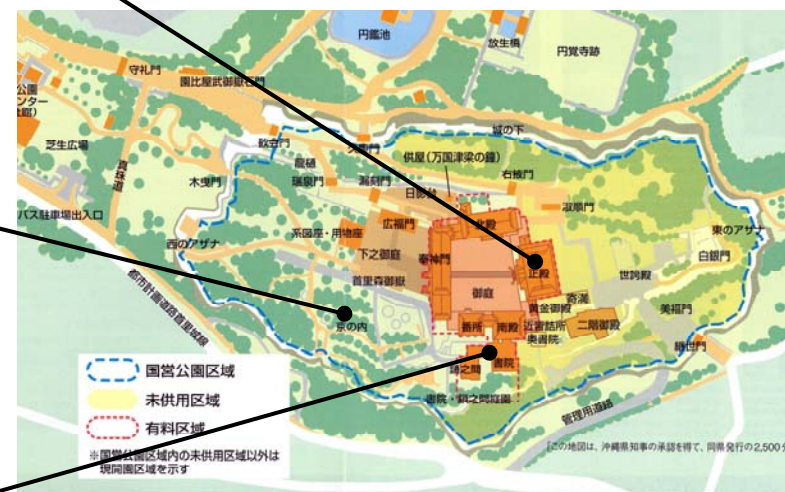
②平成15年度

京の内（約0.7ha）を追加供用



③平成19・20年度

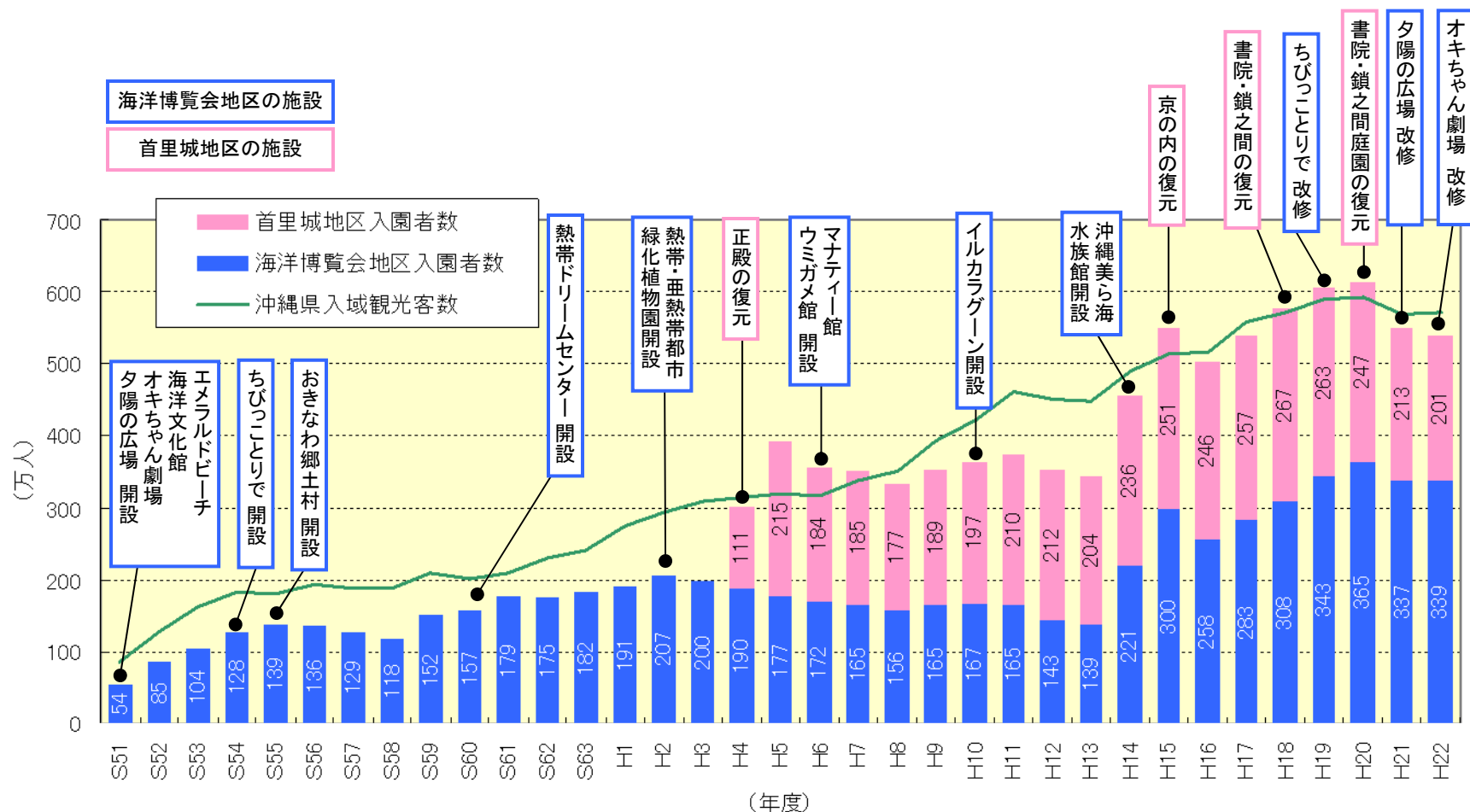
書院・鎖之間（約0.1ha）、
書院・鎖之間庭園（約0.1ha）供用



I . 事業の概要

入園者数の推移

- 国営沖縄記念公園では、施設整備に伴い、入園者数を増やしており、平成22年度の年間入園者数は、海洋博覧会地区で約339万人、首里城地区で約201万人となっている。
- 特に、沖縄美ら海水族館開館の翌年の平成15年度には、海洋博覧会地区の入園者数が開館前の2倍となるなど、顕著な伸びを示している。

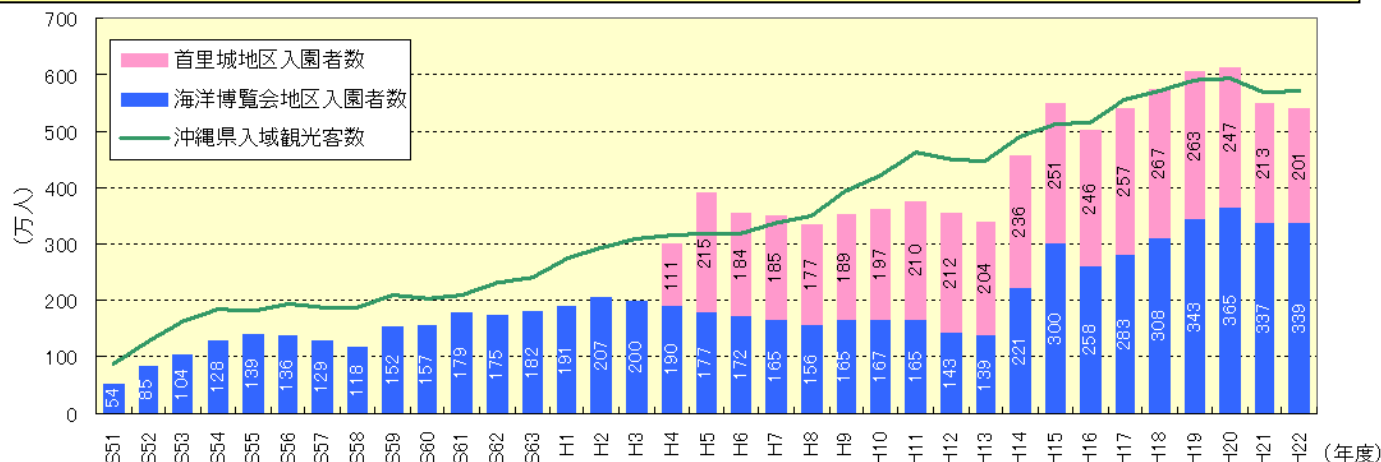


Ⅱ．事業の必要性等に関する視点

1) 事業の整備効果……沖縄観光振興の拠点

- 海洋博覧会地区と首里城地区をあわせた年間入園者数は約540万人(平成22年度)であり、県外から沖縄県へ訪れた入域観光客数と同程度。
- アンケート結果によると、沖縄旅行全体の目的(楽しみ、期待)を100%とすると海洋博覧会地区を訪れることは42.3%、首里城地区は26.8%と認識されている。

入域観光客と
公園入園者数の推移



アンケートにおける旅行全体に占める当公園への期待、楽しみの割合
(国営沖縄記念公園の利用経験者に対するWEBアンケート, H23)

【設問内容】 沖縄旅行には、海洋博覧会地区(首里城地区)を訪れる以外にも、多くの観光地があったり、食事や買い物があるなど、たくさんの目的、楽しみがあると思います。海洋博覧会地区(首里城地区)を訪れた時の沖縄旅行全体の目的(楽しみ、期待)を100とすると、海洋博覧会地区(首里城地区)を訪れることは、旅行全体の目的の何%程度でしたか？

	海洋博覧会地区	首里城地区
楽しみ割合	42.3%	26.8%

※サンプル数
海洋博覧会地区319票
首里城地区332票

沖縄観光の顔としての利用

○多くのガイドブック、ツアーパンフレット等で、沖縄観光の顔として紹介されている。



Ⅱ．事業の必要性等に関する視点

1) 事業の整備効果……海洋博覧会地区による経済波及効果

- 海洋博覧会地区入園者の北部地域における観光消費額(H22年度)は873億円であり、沖縄県全体の観光消費額3,778億円(H21年度)の23.1%に相当する。
- 海洋博覧会地区入園者の北部地域における観光消費がもたらす沖縄県全域への経済波及効果は1,249億円であり、県の経済に大きく貢献している。

海洋博地区入園者による 経済波及効果	海洋博地区 入園者数	海洋博地区入園者による 北部地域観光消費額	北部地域観光消費額が 沖縄県全域に及ぼす経済波及効果
	339万人	873億円 (一人あたり25,792円)	1,249億円

＜参考＞ 沖縄県入域観光客による 経済波及効果(H21年度)	沖縄県 入域観光客数	沖縄県入域観光客による 沖縄県全体の観光消費額	沖縄県全域の観光消費額が 沖縄県全域に及ぼす経済波及効果
	569万人	3,778億円 (一人あたり66,403円)	5,609億円

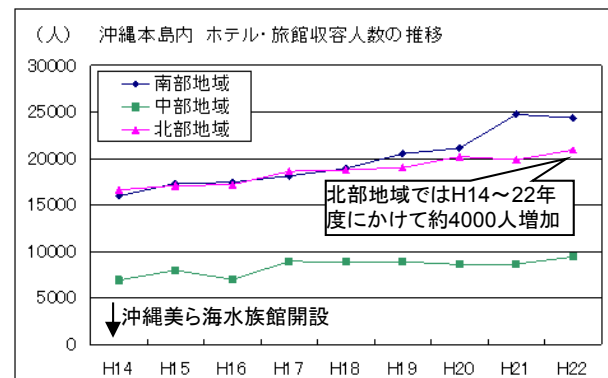
※経済波及効果

県内生産に対する直接的な需要に原材料仕入れ、備品調達などによる生産波及を加え、さらに所得増に伴う消費効果を加えたもの

＜参考＞宿泊業への効果

○北部地域におけるホテル・旅館収容人数は年々伸びている。

○海洋博地区入園者による地域の宿泊利用が一定の貢献をしていると考えられる。



Ⅱ . 事業の必要性等に関する視点

1) 事業の整備効果……沖縄の歴史・文化の拠点(首里城公園)

■首里城地区の一部は、平成12年に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」のなかの一つとして世界遺産に登録されたところであり、今後とも沖縄の歴史・文化の拠点としての機能が強く求められている。

世界遺産に登録

- 平成12年12月に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」のなかの一つとして「世界遺産」に登録。



「琉球王国のグスク及び関連遺産群」

残存する記念工作物は、数世紀にわたって、琉球列島が東南アジア・中国・朝鮮半島、及び日本との間の経済的・文化的交流の中心としての役割を担ったことを鮮明に証明している。(登録基準より)

琉球王国独自の貴重な歴史・文化遺産の回復

- 首里城は、日本や中国の建築様式を巧みに摂取して造営された城郭。
- 彫刻や彩色と建築が調和し城壁の石組みにも独自の造形と高度な技術が発揮されている。



伝統技術の継承と発展の場として活用

- 年間を通じて、沖縄固有の歴史・文化に関わる祭事、芸能を実施。



- 復元建物等の維持・修繕のための調査研究・人材育成により伝統技法の復活・継承に寄与。



地元の漆職人を活用し、建築物への漆塗りの手法の研究、復元作業を実施。

- 次世代の伝統技法の継承・発展を担う児童・生徒への普及啓発活動を実施。

琉球漆器にかかわる体験学習会等を開催



Ⅱ．事業の必要性等に関する視点

1) 事業の整備効果……地域連携

- 国営沖縄記念公園では、市民団体をはじめ、多様な主体と連携したイベントを多く実施している。
- イベントや催事を通して、沖縄固有の歴史・文化の継承に貢献している。

地域と連携したイベントの実施

海洋博覧会地区

美ら海体験まつり



沖縄の伝統漁、漁具作りなどを体験

全国トリムマラソン大会



本部町の自然・景観を満喫できるマラソン大会

マーチングバンドフェスティバル



県内小中学校の児童・生徒がマーチングを披露

昔のおきなわ生活体験



本部町の「おばあ」と昔ながらの沖縄生活を体験

首里城地区

首里城祭



史実をもとに再現された琉球王朝絵巻行列。園内のみならず国際通りまで展開。那覇市の秋の一大イベント

舞への誘い



毎週バラエティに富んだ内容の琉球舞踊が楽しめる
(H22年度開催日数:214日)

中秋の宴



かつて中国皇帝の使者「冊封使」をもてなした「中秋の宴」を再現

Ⅲ．事業進捗の見込みの視点

事業の進捗状況

	全体金額	H22年度末進捗	進捗率
事業費	1,170億円	1,017億円	86.9%

今後の事業概要

エリア	主な内容	事業費 (億円)
海洋博覧会地区	沖縄文化センターゾーン	29
	オーシャンックゾーン	47
	熱帯・亜熱帯環境ゾーン	15
	その他全域	25
首里城地区	奥書院復元 黄金御殿・寄満・近習詰所復元 御内原地区整備	36
計		152

平成29年度までに
全面供用

首里城地区



海洋博覧会地区



Ⅲ．事業進捗の見込みの視点

今後の事業概要 海洋博覧会地区①

「沖縄文化・センターゾーンの整備」 海洋文化館の改修

【整備の目的】

○さらなる海洋文化への理解を深め、その普及、継承によって施設の利用促進、活性化へと繋げる。

【課題】

- 貴重な展示品があるにもかかわらず、スペースがないため展示できないものがある。
- 映像ホールの経年劣化が著しい。
- 画一的な展示手法であり、観覧動線も分かりづらくテーマに沿った効果的な展示となっていない。

【主な整備の内容】

- 映像ホール（プラネタリウム）の改修（H23年度整備完了）
- 展示ホールの改修

【整備後に期待される効果】

- 魅力的な展示手法、及び分かりやすい観覧動線により、施設の利用促進、活性化に繋がる。
- 貴重な展示物が保全される。
- 昇降設備の設置でバリアフリーとなり、誰もが利用しやすい環境となる。



展示ホールの改修イメージ

既整備施設（映像ホール）の整備効果

○映像ホール改修後の入館者数は前年同月比で2～3倍と高い伸びを示している。

映像ホール入館者数

年度／月	7月	8月	9月	10月
H22年度	5,399	6,465	3,081	4,822
H23年度	14,805	16,011	8,625	8,851

H23.6.25映像ホールリニューアルオープン

Ⅲ．事業進捗の見込みの視点

今後の事業概要 海洋博覧会地区②

「熱帯・亜熱帯環境ゾーン」の整備 夕陽の広場の整備

【整備の目的】

- 太陽(夕陽)と花と海が楽しめる空間としての魅力向上
- 沖縄の海と夕陽を満喫する名所の再生

【課題】

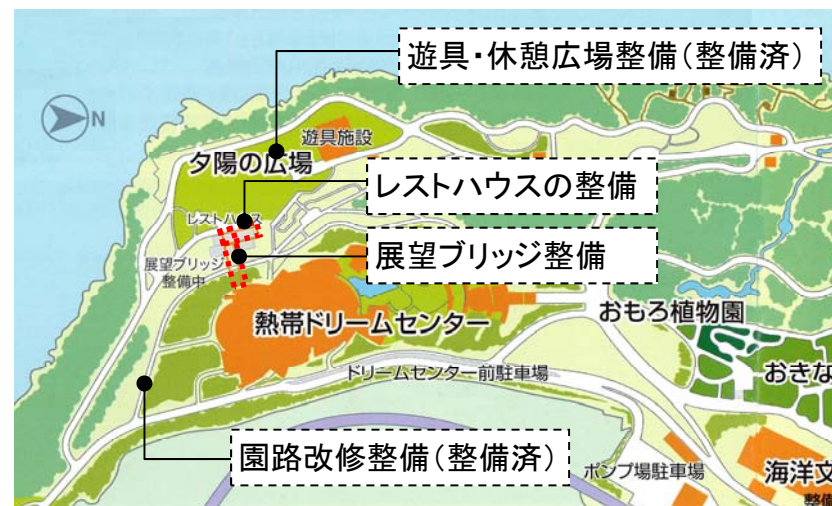
- 夕陽の広場は、海洋博覧会当時イベント会場として広く利用されていた。
- 広場東側の地形が急峻でありアクセスが困難であることに加え、沖縄美ら海水族館建設に伴う残土の仮置き場として暫定利用されたことで、多目的広場としての機能を失っている。

【主な整備の内容】

- 園路改修整備(H20年度整備完了)
- 遊具・休憩広場整備(H21年度整備完了)
- レストハウスの整備
- 展望ブリッジの整備

【整備後に期待される効果】

- 休憩機能に加え、環境教育の場としても活用できるレストハウスの整備により、当該エリアの利用促進、活性化に繋がる。
- 昇降機を備えた展望ブリッジの整備により、バリアフリーとなり誰もが利用しやすい環境となる。



展望ブリッジ・レストハウス 整備イメージ

夕陽の広場とドリームセンターとの実質的な高低差はエレベーターにより軽減され4.3m(現況22m)となり、水平距離も320m(現況700m)まで短縮される。

Ⅲ．事業進捗の見込みの視点

今後の事業概要 海洋博覧会地区③

「オーシャニックゾーンの整備」 旧水族館跡地整備

【整備の目的】

- ・沖縄美ら海水族館観覧後の休憩機能の強化、及び新たな興味への誘引
- ・沖縄美ら海水族館から他施設への中継地点としての機能強化

【課題】

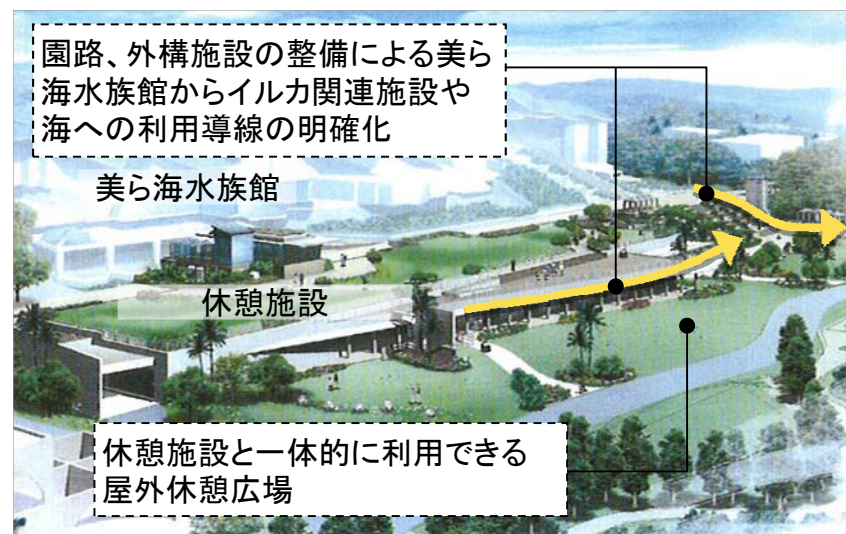
- 年間300万人近い水族館入館者に対し、出口周辺の休憩施設が不足。また、園内遊覧車との交差点となっており出口付近のスペースが狭い。
- 沖縄美ら海水族館から、イルカ関連施設などを結ぶ動線が不明確

【主な整備の内容】

- ・休憩施設整備
- ・屋外休憩広場、園路等整備
- ・マナティー館、ウミガメ館改修

【整備後に期待される効果】

- ・水族館観覧後の憩いの空間が確保される。
- ・周辺施設との連携動線の確保により、他の施設、ゾーンへの誘導による公園全体の活性化。



整備イメージ

Ⅲ．事業進捗の見込みの視点

今後の事業概要 海洋博覧会地区④

「オーシャニックゾーンの整備」 エメラルドゲート施設整備

【整備の目的】

- 公園への交通手段の転換、地域連携、公園北側エリアでの駐車スペース不足等の社会的要請への対応

【課題】

- 入園者は年々増加傾向にあり、今後もレンタカーのみならず、公共交通機関による来園者の増加が見込まれる。
- 公共交通機関や大型バス利用の増加といった、将来の総合的な交通体系に配慮する必要がある。
- 公園隣接地のホテル開発に伴い、これまでのようにホテル予定地を臨時駐車場として借用出来なくなる。

【主な整備の内容】

- 立体駐車場の整備
- エメラルドゲート整備
- バスロータリーの整備
- エメラルドゲート周辺園路の整備

【整備後に期待される効果】

- 立体駐車場が現在の臨時駐車場の代替施設として機能するとともに、あわせて周辺園路整備によりエメラルドビーチ利用者の利便性が高まる。
- バスロータリーの設置により大型バスによる大量輸送の受け入れに対応できる。
- エメラルドゲートの開設により、公園とフクギ並木で知られる備瀬集落の相互利用が促進される。



立体駐車場の整備イメージ



Ⅲ．事業進捗の見込みの視点

今後の事業概要

首里城地区

【復元整備の意義・必要性】

- ①歴史的風致景観の再現
- ②往時の主たる空間である2階の国王動線の体感(首里城の表(行政・政治)と奥(居住・祭祀)の空間を繋ぐ)
- ③現施設での展示空間不足の解消、収蔵庫不足の解消
- ④正殿裏の御内原整備を行い、首里城公園を全域開園(現2.8ha→4.7ha)する。

- 首里城地区の未開園区域である正殿裏側東側一体は、「御内原」と呼ばれ、国王とその家族、および100人ほどの女官たちの私的空間で多くの建物があった。
- 既開園区域とともに貴重な歴史・文化遺産の公開が求められている。

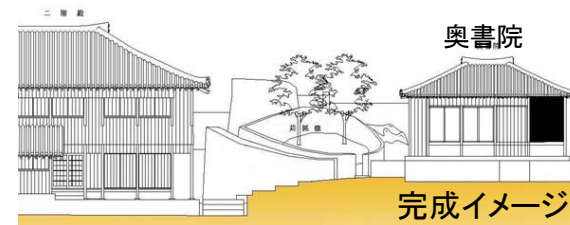
【主な整備の内容】

- 奥書院、黄金御殿・寄満・近習詰所、世誇殿、美福門の復元整備

- 周辺施設と一体的に利用できるように復元整備を行い、往時の国王の導線が再現される。
- 歴史景観の回復、展示休憩施設等の充実、首里城地区全体供用を目指す。

復元整備予定施設

施設名称	施設活用内容
奥書院 (おくしゅいん)	休憩施設
黄金御殿・寄満・近習詰所 (くがにうどうん・ゆいんち・きんじゅうつめしよ)	2Fの国王動線再現、 展示・多目的ホール
世誇殿 (よほこりでん)	休憩・展示施設
美福門 (びふくもん)	継世門(既)～美福門 の赤田地区ルート



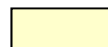
Ⅲ．事業進捗の見込みの視点

2) 事業の投資効果……費用対効果分析

- 公園整備によって生じる価値は、「利用価値」と「非利用価値」に大別される。
- 「改訂第2版 大規模公園費用対効果分析手法マニュアル」では、評価対象を利用価値とし、「旅行費用法」による直接利用価値、「効用関数法」による間接利用価値の評価手法が示されている。
- 本分析では、直接利用価値について沖縄本島内居住者と本島外居住者に分け、便益を計測した。

【公園整備によって生じる価値体系と評価手法】

価値分類		機能	価値の種類(例)	本島内便益	本島外便益
利用価値	直接利用価値	健康・レクリエーション空間の提供	健康促進、心理的な潤いの提供、レクリエーションの場の提供、文化的活動の基礎、教育の場の提供	旅行費用法 (TCM)	旅行費用法 (TCM)
	間接利用価値	都市環境維持・改善、都市景観	緑地の保全、動植物の生息、生育環境の保存、ヒートアイランド現象の緩和・二酸化炭素の吸収、森林の管理・保存、荒廃の防止、季節感を楽しむことができる景観の提供、都市形態規制	効用関数法 (UFM)	
		都市防災	災害応急対策施設の確保、火災延焼防止・遅延、災害時の避難地確保、復旧・復興の拠点の確保		
			洪水調整、地下水涵養、強固な地盤の提供、防風・防潮機能		
		地域活性化	観光客増加、地域活動推進		
	オプション価値	現在は利用しないが、将来の利用を担保することによって生じる価値			
非利用価値	存在価値	公園が存在することを認識すること自体に喜びを見出す価値			
	遺贈価値	将来世代に残すことによって生じる価値			



大規模公園マニュアルの評価対象



本分析での評価対象

Ⅲ．事業進捗の見込みの視点

2) 事業の投資効果……費用対効果分析

■ 便益(B)

「大規模公園費用対効果分析手法マニュアル」に基づき、便益(B)は直接利用価値と間接利用価値で求める。

【直接利用価値】

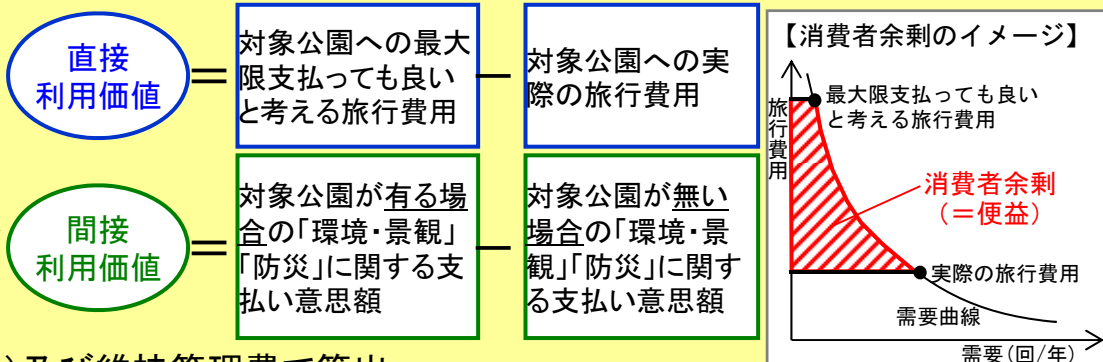
実際の旅行費用以上に支払ってでも公園を利用したいとする価値(消費者余剰※を算出)

【間接利用価値】

公園が存在することによる環境・景観、防災面の価値(支払い意思額を算出)

■ 費用(C)

公園整備に係る建設費(用地費+施設費)及び維持管理費で算出



事業全体

便益 (B)	直接利用価値	間接利用価値	総便益	費用便益(B/C)
	7,963億円	485億円	8,448億円	2.50
費用 (C)	建設費	維持管理費	総費用	
	2,075億円	1,306億円	3,381億円	

※ 便益・費用は、現在価値化した値。端数処理により合計額は一致しない。

今後の事業費

153億円 (うち用地費 1億円)

※平成23年3月末現在

■ 算出条件等

基準年 : 平成23年度

評価期間 : 昭和51年度～平成37年度

社会的割引率: 4%

適用した費用便益分析マニュアル:

大規模公園費用対効果分析手法マニュアル
改訂第2版(平成19年6月版)

総事業費 : 1,170億円(用地費+施設費)

IV. 今後の対応方針(原案)

1) 事業の必要性等に関する視点

- 国営沖縄記念公園は、両地区合わせた年間の入園者数が約540万人と沖縄観光の核となる施設となっており、引き続き整備、改修を進め、来園者に対する利便性の向上に努めていく必要がある。
- 首里城地区は、世界遺産に登録されるなど、沖縄の歴史・文化の拠点としての機能が強く求められていることから、引き続き首里城地区未開園区域の復元整備を進めていく必要がある。
- 国営沖縄記念公園は、園内で開催される多くのイベントを通して、多様な主体に活動の場を提供し、沖縄固有の歴史・文化の継承に貢献しており、今後とも地域と連携した整備、管理を進めていく必要がある。
- 費用便益比（B／C）は2. 50

2) 事業の進捗の見込みの視点

- 平成23年3月末時点における事業の進捗率は、事業費で86.9%、開園面積で90.8%の進捗となっており、引き続き事業の進捗を図り、平成29年度末には公園全体の開園を図る予定である。

以上のことから、国営沖縄記念公園の事業を継続することが適切である。